

会 報

NO.183 2019.10.15

2019年度総会/第76回記念講演会の報告・・・P.1
 第153回研究会のお知らせ・・・・・・・・・・P.4
 職域を知りたい懇談会の報告・・・・・・・・・・P.5

TMU 都市と住宅を考える会 HP <http://www.5a.biglobe.ne.jp/~tosi-jyu/>

2019年度総会/第76回記念講演会の報告

●2019(令和元)年度総会

2019(令和元)年度の定例総会が、新宿区四谷保健センターで7月20日(土)に開催されました。当日の議案等は、添付資料にてご確認ください。

議事は、加藤春生会員を議長に選出し、始めに2018年度の活動報告(第1号議案)と決算報告(第2号議案)を行いました。その後、役員予定者(第3号議案)が引き続き昨年度と同じであることを説明し、2019年度の事業方針(第4号議案)と予算(第5号議案)について提案し、討議を経て、全議案が承認されました。

昨年度の活動については、例年通り2回の記念講演会を実施したことや、通常の研究会と首都大学学生との交流研究会を実施したこと。国内現地研究会については、2017年度に実施予定だったものが、諸般の事情により2018年6月に実施されたことから、2018年度の活動とはしていないことなどを報告しました。決算については、会費の納入依頼に努めたことから予算額に近い収入になったことと、支出も節約に努めたことから、次年度繰越金が22万円余りも増えたことを報告しました。なお、当会の直接の活動ではありませんが、市街地建築物法と都市計画法が制定されて100年に当たり刊行された書籍の執筆に、当会の複数の会員が関わっていることから、その書籍の紹介もありました。

+++++

【6つの事業活動予定】・・・詳しくは第4号議案を参照

- 1 記念講演会(世話人企画/年2回開催)
- 2 国内現地研究会(会員有志企画/年1回程度実施)
- 3 研究会(会員有志企画/年数回開催)
 今年度も統一テーマは設けず、会員の関わっている事業等を中心に企画
- 4 交流活動(会員交流会/首都大学学生・院生との交流研究会/職域を知りたい懇談会)
- 5 世話人以外の会員を含めた新たな定例会の試行
- 6 年報発行

【2018年度決算概要】・・・詳しくは第2号議案を参照

	分類/科目	予 算	決 算
収 入	年会費	640,000	537,000
	その他	4,500	70,909
	前年度繰越金	924,827	924,827
	計	1,569,327	1,532,736
支 出	事業活動	330,000	283,718
	管理事務	145,000	105,986
	予備費	1,094,327	—
	計	1,569,327	389,704
差引残高		—	1,143,032

*雑収入には国内現地研究会時のバス代金の一時預け入れを含む
 *事業活動には国内現地研究会時のバス代金の支払いを含む。また、交流会費の支出なし
 *管理事務費の広報活動費の支出なし

【2019年度予算概要】・・・詳しくは第5号議案を参照

	分類/科目	予 算	適 用
収 入	年会費	645,000	9割納入目標
	その他	4,500	
	前年度繰越金	1,143,032	
	計	1,792,532	
支 出	事業活動	330,000	
	管理事務	145,000	
	予備費	1,317,532	
	計	1,792,532	

*年会費は当該年9割、過年度分15%納入を想定

●第76回記念講演会報告

今回の記念講演会は、タイトルを「東京都立大学再びこれまでとこれから」とし、テーマを「新生都立大学の建築、都市、観光分野の研究活動と“都市と住宅”との関わり」として行いました。この“都市と住宅”に関わりのある首都大学東京の3つのコース「建築学科」「都市政策科学科」「観光科学科」から、それぞれ若手の研究者をお招きして、現在の研究テーマの紹介や各コースを横断した関係性などについてディスカッションを行いました。

○日時 2019年7月20日(土) 14:15~17:00

○3人の若手研究者

讃岐 亮 助教(都市環境学部 建築学科)

: 演題「都市解析「研究」と「まち」との接点」

高道 昌志 助教(同 都市政策科学科)

: 演題「水際から見る住まいのかたち」

片桐 由希子 助教(同 観光科学科)

: 演題「観光から都市の緑を再考する」

○参加者 20名

(深尾顧問と山田幸正先生を含む 講師は除く)

この当日の報告では、講師の話された内容があまりにも多方面・多岐に亘っており、私ではとても整理・要約といったことはできませんので、詳細は割愛させていただきます。そこで、私として気になった一言や一文をさらっとご紹介。○讃岐講師「学生の頃は、理論的研究に取り組んでいたが、現在は、より実務に近い研究に移

ってきている。これからは、研究が行政職員の使えるようなツールにつながればと思っている。」(おお～、是非、そうなってくれたら本当に嬉しい～) ○高道講師「都市生活(住まい方)をもう一度、地域のコンテキストの中で位置づけていく。→一方的なサービスを越えて、住まうことを自分たちの手で作り上げる。」(本当に共感するなあ。) ○片桐講師「理科系の観光なので、学生が来るのかなと思っていたが、数学ができて、それでいて観光に進もうという優秀な学生がいる。」(そうなのか! 領域が交わる場所に、やっぱり思わぬ人材がいるんだ。学生のご指導をよろしく。将来を期待してま～す。)



なお、会場から、「<都市の魅力>それを考えるにあたって、都市、建築、造園等々、それぞれに優れた先達と呼ばれるような大先生がおられ、優れた古典がある。自分が影響を受けた先達や名著などを挙げて欲しい。」といった質問があり、それぞれ次のように返答されました。

・讃岐講師は、『奥平耕造(1937~1979) 東京大学都市工学科助教授在任中にご逝去 専門: 都市・地域解析』

・高道講師は、『川添登(1926~2015)の著作「東京の原風景 都市と田園との交流」』

・片桐講師は、『上原敬二(1889~1981) 東京農業大学名誉教授 現在の東京農業大学造園科学科を創設され、大正期に造園学会を発足させた先生で、造園教育の創始者』

といった大先生や名著を、その選んだ理由を交えながら話されました。





2005年に都立の複数の大学等が再編されて誕生した首都大学東京は、来年2020年4月から、再び「東京都立大学」に名称を戻して再出発します。今回の記念講演会は、大学の更なる発展を大いに期待させてくれるものになったと思った次第です。(1984卒 清水)



懇親会を終えて会場前にて（右側の中華料理：皇記）

第 153 回研究会のお知らせ

「神奈川県住宅供給公社 二宮団地の「さとやまライフ」実現の取組み」～郊外団地を新しい住まいの場へと再生する取組みを見る～

● 日時 2019 年 10 月 26 日（土）14 時～

● 集合 二宮団地コミュニティダイニング

神奈川県中郡二宮町百合が丘 2-2-1 百合が丘商店街 4 号店舗（JR 二宮駅北口からバスで約 10 分、「団地中央」バス停下車、徒歩 1 分）

● プログラム

・団地再生の取組みのガイダンス（県公社 薮氏などから説明）

・その後、一般の方も参加する「団地見学ツアー」に一緒に参加

・ツアー終了後、「お食事会議」（移住者や地域の若者など一品持ち寄りの懇親会）で意見交換

※お食事会議はオプションですが、楽しく団地再生をやっている雰囲気が味わえます。（18 時頃からスタートで適宜解散です）

● 交通

J R 東海道線（上野東京ライン）東京駅 12:17 発、横浜 12:44 発、二宮 13:30 着

神奈川中央交通バス 秦野駅南口行※ 二宮駅北口 13:40 発、団地中央 13:48 着

※他に、二宮団地行、緑が丘行（1,2 番乗場）などの路線もあります。

● 趣旨

二宮団地は、東京都心から約 60km、J R 東海道線二宮駅からバス圏の丘陵に立地する、昭和 40 年代に神奈川県住宅供給公社が開発した、分譲戸建と公社賃貸アパートが並ぶ団地です。

他の郊外団地の同様に、高齢化、空家の増加、建物の老朽化が進行する中、2016 年から団地を中心に、住宅と地域の新しい魅力づくりをする“二宮団地再編プロジェクト”がスタートしました。

地元の木材を利用した住戸リノベーションは、DIY で自分の暮らしを作ることも可能。団地内外の未利用地を活用した共同菜園や田んぼ、空き店舗を再利用したみんなが使えるコミュニティダイニング、歌声ダイニングでは、新たなコミュニティを生み出しています。団地には、「さとやまライフ」を楽しむために移り住んできた若い世代もいるそうです。

ベッドタウンとしての役割から、里山の自然と共生し楽しむ、これからの新しい住まいの場としての再生が試みられています。

この活動は、二宮町において、モデル地区として取り上げられ、地域住民・二宮町・公社からなる「地域再生協議会」が組成され、三者が連携した地域課題の解決への取組みも始まりました。

自らの住まいの場に積極的に関わり楽しむ二宮団地の暮らしを見に行きませんか。

★二宮団地HP

<https://www.nino-satoyama.com/>

※ 今回の企画は、神奈川県住宅供給公社団地再生コーディネーターの薮（しとみ）氏（県及び公社OB、都立大昭和 53 年修士修了）にご協力をいただいています。

● 参加費 無料

● 参加申込

現地で準備をしていただく公社へ人数を連絡しますので、氏名、所属を呉までご連絡ください。

呉 職場（豊島区）

yuuichirou-01-go@city.toshima.lg.jp

自宅 go-y@f2.dion.ne.jp

携帯 090-3049-2289（当日連絡先）

首都大で「職域を知りたい懇談会」を開催

毎年恒例の「職域を知りたい懇談会」が、9月9日に首都大学東京にて開催されました。

この懇談会は、大学と都市と住宅を考える会の共催で、就職活動を控える学生に対し、都市の職域（都市やまちづくりを意識して関わる建築、住宅などの分野も含む）を中心とした実務を紹介し懇談するとともに、当会を紹介することを目的としているものです。開催概要は下記の通りです。

日時 : 2019年9月9日
 場所 : 首都大学東京 9号館 776号室
 参加者 : 会員 13名、学生 16名

- ① 趣旨説明（吉川教授）
- ② 「都市と住宅を考える会」及び職域に係る全体説明（呉代表）
- ③ 各分野代表からの説明
 - ・都市開発分野（池田会員）
 - ・コンサルタント分野（佐野会員）
 - ・国、地方公共団体（呉代表）
 - ・地方公共団体、民間都市開発分野（双川会員）
 - ・独立行政法人（小林会員）
- ④ 班ごとのフリーディスカッション
 - ・民間、公的機関の希望別に班を分けて、それぞれの講師と実施

当日は夏休み期間中にもかかわらず、当会に先駆けて建築法規の授業もあり、多くの学生に参加いただきました。冒頭、呉代表より、高見澤先生の「都市には多様な主体がいる」のお言葉を踏まえ、様々な人との調整が都市の職域の本質である旨の説明がありました。続いて、都市に関連した様々な職域の概要説明がありました。

その後、第一部として、各分野代表から今までに携わった業務内容や仕事の領域、特色等の説明がありました。民間及び公的機関の両方面から具体的な仕事の説明があり、参加された学生は配布された資料に熱心に目を通し、メモを取っている姿が印象的でした。



第二部では公共系と民間系に分かれ、各分野でグループディスカッション形式をとりました。公共系のグループでは、公共系か民間系か悩んでいる学生がいる一方、具体的な質問も飛び交いました。職場の雰囲気、仕事のやりがい等、一步踏み込んだ質問に各分野の講師がそれぞれの立場から詳しく回答をしていました。

当懇談会は、都市の職域における自らの仕事の役割を再認識させられるとともに、普段なかなか耳にしない他業種の仕事について理解を深める良い機会となりました。学生にとっては、自身の将来を見つめ都市の職域に触れる良いきっかけとなったことと思います。（加賀美 H24）



▲公共系グループの様子



▲民間系グループの様子

会 報 N o . 1 8 3	
発行年月	2019年（令和元年）10月15日
発行	TMU都市と住宅を考える会(代表:呉 祐一郎)
編集	広報担当（担当：清水俊哉）
事務局	〒107-0052 東京都港区赤坂 7-6-2 株式会社佐々木設計事務所 気付 TEL : 03-3582-9271 FAX : 03-3582-9275 E-mail : tla@yb3.so-net.ne.jp（佐々木龍嗣） http://www5a.biglobe.ne.jp/~tosi-jyu/index.htm
会 費 納 入 先	みずほ銀行 青山支店 (211) 普通 1395265 口座名 「都市と住宅を考える会」 ゆうちょ銀行 記号 10060 番号 97323971 口座名 「TMU都市と住宅を考える会」